

### 新しい検査入院が始まりました

てんかんは、赤ちゃんから高齢な方まであらゆる 年齢で発病する病気ですが、発病年齢によって原因 や治療法は一様ではありません。また、患者さんの 年齢により診療が求められるものも異なります。

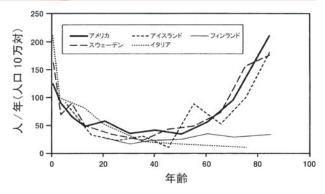
当院ではこの度、患者さんや時代のニーズに沿った 2つの新しい検査入院を始めたのでお知らせします。

#### 1. 高齢の方のためのてんかんと認知機能の検査入院

てんかんは子どもの病気と思われがちですが、実際には図のように、高齢になって初めて発病する方は、乳幼児と同様に多く、高齢の方のてんかんが注目されるようになりました。その一つが、認知機能との関連です。

加齢とともに認知機能は少しずつ低下します。しかし背景に何らかの病気があると、低下の幅は大きくなります。よく知られているのは、認知症とその予備群(軽度認知障害)です。当院の認知症疾患医療

### 統括診療部長 久保田 英幹



センターでは、幅広い認知機能検査により、認知症の 早期発見・早期治療への取り組みを行っています。

てんかんも背景疾患の一つです。てんかんは子どもの病気でもありますが、最近は高齢ではじめててんかんになる方が非常に増えています。高齢の方のてんかんは治りやすいのが特徴で、治療により認知機能が改善することも少なくありません。

一方で、アルツハイマー病のてんかんの合併率は、一般の10倍高いといわれています。アルツハイマー病は、アミロイド $\beta$ (ベータ)とタウ蛋白という二つの物質が脳内に溜り、神経を障害することが原因とされていますが、この二つの蛋白は発症する10年以上前から蓄積が始まっています。この神経障害と、てんかん発作を起こすネットワーク形成との関連に関心がもたれています。

#### 入院の内容

長時間脳波でてんかん性の活動の有無を詳細に調べます。MRI、核医学検査で脳の形態や機能を調べます。神経心理検査を行い、認知機能や前頭葉の働きを調べます。血液・髄液検査で、認知症をともないやすい疾患の検索や、アルツハイマー病に関わる脳内の異常な蛋白の有無を調べます。また、リハビリテーションスタッフによる評価などを、1週間で行います。必要により、またご希望により、他院での特殊検査や研究段階の検査をおすすめすることもあります。

#### 入院結果を踏まえて

行われた検査について、結果を適切に評価し、情報の提供、(必要に応じて)治療のご提案、リハビリテーションスタッフによる生活指導などを行います。経過を定期的にチェックさせていただくことも可能です。

# 2. 小児科から成人科への移行の準備のための入院入院の目的

小児期にてんかんを発病した患者さんは、小児科で診てもらっている間に発作が止まり治療も終了するとよいのですが、成人になっても治療の継続が必要なことも少なくありません。大人になるにつれて進学、就労、結婚・妊娠・出産、運転などに際して治療内容の変更やアドバイスなどが必要になりますので、適切な時期に大人のてんかん診療科(神経内科、精神科、脳外科)に転科して治療を継続することが望まれます。しかし、大人になっても小児科の先生にかかり続けている患者さんが多いのが現実で、

その理由は、長く診てもらっている小児科を離れが たい患者さんの心情、大人のてんかんを診る医療機 関が小児科に比べると少ないこと、大人の診療科が 小児期からのてんかんを診るのに不安を抱くことが ある、などです。

長年、小児から成人まで垣根なくてんかん診療を おこなってきた当院では、患者さんと医療者の双方が 小児科から大人の診療科にスムーズに移行できるよ うにお手伝いする入院プログラムを用意しています。

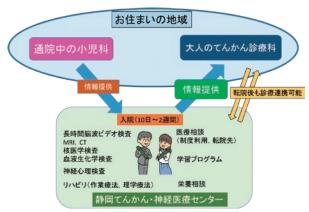
#### 入院の内容

入院中に各部門が集中的にかかわり、診療移行に必要な情報をまとめます。病歴を整理し、必要に応じて長時間ビデオ脳波検査、MRI、核医学検査、血液生化学検査などを行い診断、問題点、治療方針を明確にします。さらに神経心理検査、リハビリでの能力評価、利用可能な制度紹介や転院先のご相談にのります。

その他、疾病学習プログラムや栄養相談なども可能です。10日から2週間程度の入院が目安です。

#### 入院結果を踏まえて

患者さんの疑問にお答えするとともに、年齢や社会的状況に応じた診療上・社会生活上のアドバイスを行います。また、大人の診療科が受け入れやすいよう入院中にまとめた診療情報をわかりやすい形で提供します。診療移行後も必要に応じて検査・治療や学習プログラム(MOSES:モーゼス)のための入院も可能です。



#### 1 入院をご希望の方

下記までお電話いただき「入院希望」とおっしゃってください。担当医師が相談させていただきます。

054-246-1065

### 2)外来受診を希望される方

お電話での申し込み 054 - 246 - 1065 (専用)

ファックスかメールでの申し込み

当院ホームページの"初診"のページで「初診申込書」をダウンロードしていただき、下記までお送りください。折り返しご連絡させていただきます。

FAX 054-246-4607(専用)

MAIL szec-yoyaku@shizuokamind.org

#### 3)詳しくお知りになりたい方

お電話でお問い合わせください。

054-245-5446 (病院代表番号)

上記にお電話いただき、「初診前の相談希望」とおっしゃってください。

(平日11:00~13:00)

### 信州大学医学部付属病院 てんかん外来開設記念講演会

検査科 佐藤 哲也

残暑厳しい9月初旬、主任脳波技師佐藤哲也と院内認定てんかん看護師石原己 緒光が、信州大学医学部付属病院にて講演をさせていただきました。

演題:「長時間ビデオモニタリングの目的と実際の運用」

「てんかん診療における看護師の役割とてんかん発作時の対応」

共催:信州大学医学部附属病院 第一三共株式会社

ユーシービージャパン株式会社



信州大学附属病院ほか、長野県立こども病院など周辺の医療機関の技師、看護師などコメディカルのスタッフと医師の方々約70名の皆様に聴講していただきました。講義中に筆記される方や、技師による手技と、看護師2名(青柳政彦、井口京子)をモデルとした発作対応デモンストレーションのビデオ撮影をされる方など、熱心に聴講されるスタッフが多いと感じました。参考にしていただくためにお話した、検査の運用法、てんかん看護の重要性、患者さんの苦悩などを少しでもお伝えすることができたのではと思います。

てんかん科外来福山医師の挨拶では、長野県にて んかん診断と治療を行える基盤を根付かせたいと熱 く訴えておられました。

佐藤、石原両名とも、院外に発信する重要性に気づき、小さな活動ですが、どの地域でも同じ医療と充実 したサポートを受けることができるよう、てんかんセ

ンタースタッフの皆様と 共に、病院や施設、関係 団体等に広めることがで きればと思っています。

最後に、周辺の医療機関の方々も含め、講義時間が超過する中、多数御参加していただき深謝申し上げます。



### 第37回 サマーショートボランティア

医療福祉相談室 堀田 真子

サマーショートボランティアとは、静岡県ボランティア協会が毎年夏に主催しているボランティアです。夏休みを利用したボランティア活動体験プログラムで、静岡県内の272箇所の社会福祉施設や社会教育施設でのボランティア活動の受入れをしており、当院も受け入れ先の1つとなっています。

今年は高校生23名が夏休みを利用して当院でボランティア活動をして下さいました。神経内科病棟、てんかん小児病棟、重症心身障がい児者の病棟で、4日間活動していただきました。活動内容としては、車イスの清掃や窓の清掃等の環境整備、また食事介助等の患者様との関わりで、ボランティアのみなさんは、一生懸命に取り組んでくださいました。

参加してくださった学生さんは、将来看護師を目指している方、教育関係・福祉関係の仕事を目指している方など様々で、活動後の感想では将来の進路

選択の参考になったという意見も聞かれました。

サマーショート ボランティアの活 動を通して、将来 の進路の選択に前



向きに考えるきっかけとなったこと、また病気や障がいのある方のことを考えるきかっけになったことをとても嬉しく思います。

参加者のみなさんは初めての場所でとても緊張していたと思いますが、普段の生活では味わえない良い経験が出来たのではないかと思います。私たちスタッフも、とても良い刺激を受けました。参加して下さった皆さん、ありがとうございました。そして、お疲れ様でした。

# famosesってなに?



famoses (Modulares Schulungsprogramm Epilepsie für Familien)とは、てんかんのある子どもとその親・家族のための学習プログラムです。てんかんのある子どもやその親・家族が、それぞれほかの子どもたちや親と、トレーナーを交え意見交換しながら、病気についての知識や、病気と向き合う方法について学びます。

famosesは子どものコースと、親と家族のコースに分かれています。同じ病気をもつ子どもや親と交流することはとても励ましになり、また支えにもなります。

子どものコース(およそ8-12歳の子どもを対象)では、子どもたちはバーチャルな船旅に出発します。船に乗り込み、ほかの子供たちと協力しながらさまざまな島を旅して、てんかん

■ に関する多くのことを遊びながら発見し

ていきます。

親と家族のコース



は、テキストに基づいて、てんかんに関する基礎知識、診断、治療、予後と発達、病気との向き合い方などについて学習します。子どものコースと並行して行われ、学ぶ内容も対応しています。子どもが何らかの事情でプログラムに参加できない親・家族の方も参加できます。ただ単に知識を深めるだけでなく、考え方を振り返り、子どもの自立への扉を開け、日常のなかで病気と向き合いより良い対応ができるようになることが目的です。

famosesは2005年にヨーロッパで開始されました。親・家族のてんかんに関する知識を充実さ

せ、てんかんへの対処を手助けし、不安を軽減することが、科学的に証明されています(Hagemannらの論文。2016年)。



(小児科医 大谷 英之)

## 親と家族のコースを振り返って

第1回目famoses親と家族のコースでは、1歳から13歳までのてんかんのあるお子さんのご家族8名が参加してくださりました。第1章の「出会い」ではてんかんと診断されたときの気持ちと向き合います。つらい感情と向き合うことになりますが、その感情は正常であり、どのように乗り越えていくか、そしてお母さんは必



ずえあを学す章乗るる一び。かり力こ緒が第らはまりは

てんかんの知識について学習します。医師が トレーナーになり、それぞれのご家族が抱える 状況や不安を共有しながら、学んだ知識と繋ぎ 合わせていきます。最後の「てんかんとともに 生きる」の章では、病気と向き合いながらも、子 どもの力を信じ支えていくことの大切さを学び ます。最初は緊張していたお母さん方でした が、最後は表情や発する言葉も頼もしく、涙も 笑顔も輝いていて気持ちの変化が伝わってきま した。てんかんについて正しい知識を学べたこ と、8名のご家族で一緒に共有しながら深めら れたことは、子どもを支えていく過程で大きな 力になるはずです。今回のプログラムを通して、 famosesの意義を体感し広めていくべき内容だ と改めて感じています。子どもとご家族の笑顔 を目指し、これからも取り組んでいきたいと思 (A4病棟 副看護師長 原 稔枝) います。

### 子どもコースを振り返って

このたび開催された、第一回famoses子どものコースには、3名の子どもたち(8~13歳)が参加してくださいました。子どもたちそれぞれ、てんかん発作症状や、生活環境が異なる子どもたちでしたが、トレーナーと共に楽しみながら学習する時間になりました。初めは緊張して不安いっぱいだった子どもたちも、回を重ねるごとに反応が活発になっていきました。コースの後半では、自分の発作症状を絵にして表現



する、周りの人に話 してみる、といった 体験をします。ト レーナーはもちろ ん、ご家族にとって も、子どもが自分の発作をどているのか知る機会になったと思います。みんなのます。



前で発表することに緊張する子どももいましたが、頑張って発言する姿、その後の嬉しそうな表情を見て、トレーナー全員心を打たれました。ある子どもは、その後の病棟生活の中でも、自分の体調を言葉にして伝えることができたと聞きました。子どもの可能性を信じ、このコースへの参加に同意してくださったご家族の勇気にも感動し、今後famoses受講を希望する方々へ、こうした経験を伝えていくことがトレーナーである私達の役割ではないかと考えています。

(A5病棟 副看護師長 松田 春美)

### famosesワークプックが 出版されました

院長先生に日本版famoses出版のお話を 頂いたのは2016年4月のことでした。当時 famosesについて全くの無知でしたが、翻訳されたものを何度も読み、実際に作られたドイツ にも研修に行かせていただく中で日本版テキストのイメージが出来上がってきました。テキ スト作成にあたっては、冒険に出かけるワクワ ク感をイメージしてイラストを作成し、子ども のテキストは、子どもたちが読みやすいよう、 文章を工夫したり、ふりがなを多く採用しまし



た。そして作成から900日。2018年10月25日に、親と家族版、子ども版のテキストが出版となりました。プロがデザインしたようなかっこいい本ではないですが、たくさんのスタッフがテキスト作成に関わり、当院スタッフの想いがこもった本になっていると思います。この本が、多くの方のてんかんという病気の理解につながってくれればと願っております。

(療育指導室・てんかん地域診療連携室 髙橋 輝)

#### 購入方法について

【famosesワークブック 親と家族のためのてんかん学習プログラム】は、全国の書店でお買い求めいただけます。

【famosesワークブック 子どものためのてんかん学習プログラム】は、下記のインターネット販売のみとなります。
URL http://human-press.jp/book\_x.html

### 園芸療法 畑の底力

作業療法士 廣田 清美

毎週火曜日の午前中、院内 にある畑で患者様方と一緒に 季節の野菜を育てています。

今年の夏もとても暑い日が 続き、みんなで汗だくにな りながら一生懸命園芸活動に 取り組みました。

園芸活動では、季節に合わせた野菜の種まきから、収穫、 さらに採れたての野菜を使った料理までの一連の流れを 行っています。収穫するまでには、肥料をやったり、雑草の手入れをしたりと大忙しです。特に夏は、たくさん野菜達も育ちますが、それに伴い雑草たちもぐんぐん成長します。一人の力だと、なかなかはかどらない雑草の手入れも、園芸メンバーのみんなでやると、あっという間に綺麗になりました。

園芸活動を通して、一人では大変な事も、みんなが居ることで頑張れるという集団の力を感じてもらえれば、尚充実した園芸活動になるのではないかと考えています。

季節が変わり、畑の野菜達の種類も変わってきます。次はどんな野菜、その野菜を作った料理に出会えるでしょうか。楽しみです。

### てんかんをめぐるアート展~その後

2016年10月に第1回の「てんかんをめぐるアート展」を静岡で開催し、てんかんに関わる多くの作品を全国から出品していただきました。展示会はとても好評で、その後、2017年の第2回京都展、2018年の第3回横浜展へと引き継がれています。

2018年9月には、ドイツのビーレフェルト市にあるベーテル病院で展覧会が開催され、第1回静岡展出品作のうち30点が展示されました。ま

た、第1回展と第2回展の合同作品集を、日本語 と英語の解説付きで出版予定です。

展覧会後、出品者のご厚意で、いくつかの作品を当院1階廊下で飾らせていただいています。病院を訪れる人からは賞賛の声をいただいています。アート作品が飾ってあるのが病院の日常風景になりました。てんかんをめぐるアート作品の常設の展示場として、これからも展示を続けていきます。

なお、第1回展と第2回展の作品集は、当院で 購入できます。 (院長 井上 有史)

# 青空の下の七夕コンサート 療育指導室 小池菜生

当センターの重症心身障がい児・者病棟は、160名の6歳から80代までの患者様が入所されていらっしゃいます。患者様は、長い入院生活をここで過ごしている方も多く、少しでも変化のある生活を送っていただけるように様々な行事を行っています。その中で、毎年ボランティアを依頼し、4個病



棟で一同に集まれるウッド デッキで「コンサート」を実施 しています。ボランティア は、消防や警察の音楽隊の演 奏や、ベリーダンス、琴や尺 八の演奏など様々で す。今回7月の「七 タコンサート」では、 「Miracle☆Flutes with Chiharu」の4



名の方に来ていただき、普段耳にすることのないフルートの演奏やピアノ演奏をしていただきました。歌を口ずさめる方や楽器を一緒に鳴らせる方はもちろん、普段はなかなか表情の変化が分からない方も目を大きく見開いたり、表情が少し良くなったりと楽しんでいる様子がみられました。今後も患者様に様々な体験をして楽しい思い出を作っていけるように計画をたて実施していきたいと思います。

### ■■■ 外来再診の診療体制

### てんかん科

### 午前の診療時間は8:30~12:00 午後の診療時間は13:00~16:30

	月	火	水	木	金
第1診察室		山崎	Ш 🗆	山崎	臼 井直
第2診察室	久保田 <sub>英</sub>	池田原のみ		久保田 <sub>英</sub>	
第3診察室	今 井		井 上		近藤
第4診察室		鳥 取	日吉		日吉
第5診察室	池田仁	池田浩	池田浩	寺 田清	寺 田清
第6診察室	芳 村			芳 村	松 平
第7診察室		荒 木		美 根	山口
第8診察室		西田	高橋		
第9診察室	重 松			大 谷	大 谷

### 神経内科

	月	火	水	木	金		
第10診察室	午前         寺田達         午後         小尾	小尾	小尾		小尾		
第11診察室	杉浦	杉浦	寺田達		山崎/馬場國 尾内(第4)		

### 特殊外来

転倒予防外来	随時	小尾				
認知症疾患医療センター	月•水	寺田達・小尾				
遺伝相談	随時	高橋、小尾				
禁煙外来	随時	池田仁				
ねむけ外来	月	寺田清				
包括的てんかん外科初診外来	火	臼井				

再来診療は予約制です。予約が出来ない場合は午前中にお越しください。

### 医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に 行なうために、医療連携室(予約センター)を 設置しています。ご利用ください。(平日)

TEL■054-246-4580(初診)

054-246-1065(再診)

**FAX** ■ 054-246-4607

予約センターの受付時間

● 9:00 ~ 12:30 ● 13:30 ~ 17:00

E-mail ■ renkei@shizuokamind.org

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、脳磁図、 終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの 検査が可能です。共同利用も可能です。 上記、医療連携室にお問い合わせください。

### 広 報 誌 編 集 委 員 会

### 編集人■

寺田清人佐藤 美喜子坪井千浩矢嶋隆宏佐倉裕二松田 雄一朗堀田真子高橋輝井上和哉大山敏生

**発 行■**平成 30 年 11 月 9 日

国立病院機構

静岡てんかん・神経医療センター 〒420-8688 静岡市葵区漆山 886

T E L ■ 054-245-5446

F A X ■ 054-247-9781

URL ■ http://www.shizuokamind.org

E-mail ■ shizuoka@shizuokamind.org

### はじめて当院を受診される方へ

#### ◆診察は予約制になっています◆

#### 1 受診のための手続きは…

予約は、ご本人・ご家族から当院地域医療連携室 (054-246-4580)へ、あるいは主治医の先生から当院 地域医療連携室へ申し込んでください。その際、ご本人の 氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお 尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日 を決め、折り返し当院からくわしい書類をお送りいたします。

#### 2 緊急を要する時は・・・

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたします ので、緊急を要する時はその旨をご連絡ください。

#### 当院へのアクセス

### acces

### バスを ご利用の場合

● JR静岡駅前、北口バスターミナル5番線より静岡 鉄道バスにて、こども病院線「67こども病院・ 神経医療センター」行に乗車、終点の"静岡神経医療 センター"で下車。全所要時間は約30分。 片道料金は大人360円、小児180円。

#### タクシーを ご利用の場合

■ JR静岡駅前(北口)より乗車。 所要時間は約20分。料金は2,500円程度。

### 東京 方面から

名古屋 方面から

- ■東名高速清水インターより、静清バイパスを静岡 方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター 通りを北へ約3分。所要約20分。
- ●御殿場JCTで新東名高速道路へ乗換。新静岡 ICよ り、案内板に従い直進。所要時間約7分。
- ●東名高速静岡インターより、国道1号線を清水方面 に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを 北へ約10分。 所要約30分。
- ●新東名高速道路・新静岡 ICより、案内板に従い直 進。所要時間約7分。

### 3 紹介状について

現在すでに病院へかかっておられる方は、主治 医の紹介状があることが望ましいですが、なくても 結構です。紹介状がない場合は別途費用(2,700円) がかかりますので、ご了解ください。病院からの資 料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

### 4 セカンドオピニオンについて

セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

#### (5 静岡市認知症疾患医療センターについて

認知症の受診やご相談は専門医療相談 ☎054-246-4608



### 本

お車の場合

### ●抗てんかん薬ポケットブック(改訂第6版)

【日本てんかん協会、2016年】

禁忌、重大な副作用、重大な副作用疾患別症状、体内 動態と主な副作用、相互作用、抗てんかん薬プロフィー ル、新規抗てんかん薬の開発状況、Q&A、識別コー ド(錠剤のみ)を掲載。

#### ●てんかん症候群(第5版)

~乳幼児・小児・青年期のてんかん学~ 【中山出版、2014年】

てんかん学の「ブルーガイド」として世界的に普及し ている "Epileptic Syndromes(原書第5版)"の日本語 翻訳版です。4版よりも10%以上ボリュームが増え、 より詳しい内容になり、他では決して得られない極め て貴重なてんかん発作の動画付き。静岡てんかん・神 経医療センターのスタッフが総力をあげて翻訳してい ます。

#### ●てんかんをめぐるアート展2016

【日興美術社、2016年】

当院が主催した第50回日本てんかん学会学術集会の折りに、「てんかんをめ ぐるアート展」を開催しました。その図録です。全国から集まった160点を 収録しています。当院にて入手可能です。

#### ■プライマリ・ケアのための 新規抗てんかん薬マスターブック(改訂第2版)

【診断と治療社、2017年】

「副作用のない治療によるてんかん発作の完全抑制」は、治療を担当する医師

および患者さんとそのご家族にとって、切実な願いです。 2006年以降、「新規抗てんかん薬」とよばれる新しい抗てんかん薬が順次発 売され、今後しばらく、新規抗てんかん薬の発売が続くと予想されています。 本書は、これらの新規抗てんかん薬の使い方をわかりやすく解説したもので す。小児と成人に分けて、エビデンスやガイドラインに基づいて、当院のス タッフがわかりやすく執筆しています。当院高橋幸利先生の編集です。

### てんかん情報センターのご案内

センターが外来棟1階にあります。

- どうぞご利用ください。次の活動を行っています。
- てんかんに関するさまざまな情報を集積した **◆** てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧・貸し出し(自己学習)
  - ②ホームページによる情報提供 http://epilepsy-info.jp/
  - ❸ てんかん協会との連携
- ◆医療などの相談(予定)